

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 102 回

『「現代に生きる新渡戸稲造の教育の魂」 ～ 人格形成 ～ 』

2022年3月25日クラッシュジャパンのZoom形式の理事会に出席した。クラッシュとは、Christian（クリスチャン）、Relief（救援）、Assistance（協力）、Support（支援）、Hope（希望）の頭文字【CRASH】からなっている。被災者支援団体で、災害時に被災地域で求められる活動が迅速にできるように、ボランティアを派遣している。2011年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災の際には、被災地に5つのベースを設置し、2700名を越えるボランティアを動員している。世界中からのボランティアたちが、清掃作業、物資の配布、建物の復旧作業、被災者への傾聴、作物の栽培、クラフトやアート、コンサート、チラシの配布、モバイルカフェなどに携わっている。2021年度は、①7月の熱海土砂災害の支援 ②8月の九州・佐賀での豪雨災害での現地活動が行われている。

この度、「新渡戸稲造生誕160年記念映画製作委員会」が立ち上げられ、『新渡戸稲造生誕160年記念作品「現代に生きる新渡戸稲造の教育の魂」』が企画されるようである。『2022年、新渡戸稲造(1862-1933)の生誕160年記念して授業イベントと映像作品の御提案です。武士道で知られる新渡戸稲造は、教育者としても後世に多くのものを残しました。札幌農学校教授、京都帝国大学教授、東京帝国大学教授、第一高等学校校長、東京女子大学初代学長、新渡戸文化短期大学初代校長など教育界で活躍し、札幌農学校教授時代には、萬里子夫人（メアリー・P・エルキントン）と共に私費を投じて、様々な事情で学校へ行けない青少年のために遠友夜学校を設立しました(1894年)。「見も知らない者たちが、ここで出会って友達になり、共に手を携えて勉強するーそれがこの学校だ。」新渡戸の教育精神は、人格形成にあります。後に新渡戸は語っています。「教育や学問によって人格を修養し、高尚なものにすることこそ最も大事な教育の目標です。そして、誰とでも相応に談話ができて、円満に交際をしていけることが大切で、そんな人間を育てることが学問や教育の最大の目的だと考えています。」。この企画では、この新渡戸の教育精神を現代に受け継ぐ人々とその活動を紹介し、新渡戸の現代的な意義を顕彰します。企画の二本柱は、学校で

の授業とドキュメンター映画制作です。』と謳われている。実現すれば歴史的
大事業となろう！